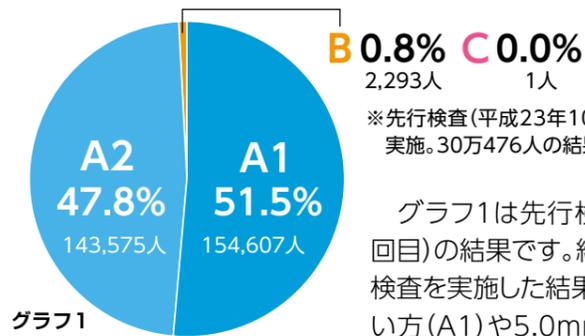


最新の検査結果をお伝えします

平成28年3月31日現在の検査結果をお伝えします。

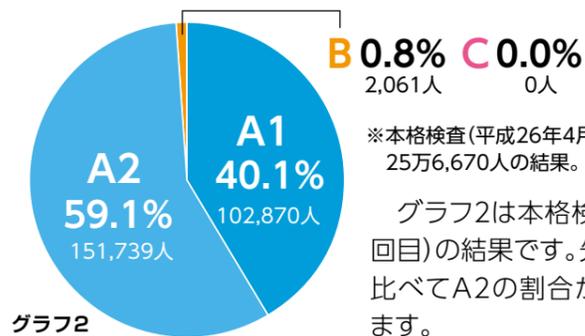
先行検査の結果内訳(平成28年3月31日現在)



グラフ1は先行検査(検査1回目)の結果です。約30万人の検査を実施した結果、所見のない方(A1)や5.0mm以下の結節や20.0mm以下のう胞がある方(A2)は全体の約99.2%となっています。

精密検査(二次検査)をお勧めするB・C判定の合計の割合は0.8%です。

本格検査の結果内訳(平成28年3月31日現在)



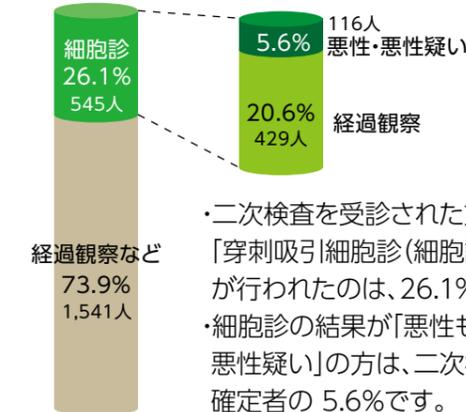
グラフ2は本格検査(検査2回目)の結果です。先行検査に比べてA2の割合が増えています。これは、本格検査の受診者のうち、のう胞が見られる傾向が高い小学生から中学生の受診の割合が多いためと考えられます。

なお、B・C判定の合計の割合は0.8%です。

※結果内訳において小数点第一位で表示されている割合のものは、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

先行検査 二次検査の結果

二次検査を受け、結果が確定した2,086人の内訳



【県民健康調査】甲状腺検査結果より(平成28年3月31日現在)

【判定結果の説明】

A判定	A1	結節やのう胞を認めなかったもの。
	A2	5.0mm以下の結節や20.0mm以下ののう胞を認めたもの。
A判定の方は次回の検査を受診ください。		
B判定	5.1mm以上の結節や20.1mm以上ののう胞を認めたもの。	
C判定	甲状腺検査の状態等から判断して、直ちに二次検査を要するもの。	
B・C判定の方は二次検査を受診ください(二次検査対象者に対しては、二次検査日時、場所を改めてご連絡します)。		

詳細な情報は、ホームページでもご覧になれます。

放射線医学県民健康管理センター

ホームページアドレス
http://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/result/



検査結果の詳細情報の提供について

甲状腺検査結果の詳細情報(超音波画像等)は、簡易な手続きで取得することができます。詳しい内容につきましては、下記お問い合わせ先またはホームページをご確認ください。
[URL] <http://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/data-request/>

12月より甲状腺検査のオフィスが移転する予定です。

平成28年12月、県民健康調査に携わる全ての部署が福島県立医科大学内に建設中の「ふくしまのちと未来のメディカルセンター」に移転します。甲状腺検査の事務を担当しております甲状腺検査室も、下記の住所に移転いたします。郵便等をお送りいただく際はご注意ください。なお、コールセンターの電話番号に変更はございません。
新住所: 〒960-1295 福島市光が丘1番地

甲状腺検査の最新情報をお伝えします。

これは甲状腺検査のご案内ではありません。

甲状腺通信

今号の内容

- 検査同意確認書について
- 住所変更
- 超音波検査機器のしくみ
- 最近よくいただく質問
- 新たな責任者の紹介
- 最新の検査結果

2016年8月発行
第6号

検査同意確認書について

検査「不同意」の欄を設けました。不同意の方もご提出をお願いいたします。

平成28年度より、本格検査2回目(検査3回目)が始まりました。28年度と29年度の2年間にわたって検査を行う予定です。順次、受診のお知らせをお届けします。

甲状腺検査の受診は任意です。これまでは、検査を受ける方だけに「同意書兼問診票」をご提出いただいていたましたが、検査受診の意思を確認するため、今回より、検査を受けることに「同意します」「同意しません」のどちらかに印をつけていただく欄を設けました。これに伴い、書類の名称も「同意確認書兼問診票」へと変更しております。今回から、検査を受診しない方も、ご提出をお願いいたします。

「同意しません」を選択された方には、その回の検査について、受診のご案内を追加でお送りすること(受診勧奨)はいたしません。同意、不同意の意思はいつでも変更が可能です。

必ずどちらかに チェックをつけてください

検査を受ける方は
「同意します」に
チェック

検査を受けない方は
「同意しません」に
チェック

以上のことを理解のうえ

- 後記対象者(本人が未成年の場合は保護者)が、今回の甲状腺検査を受けることについて仰います。当てはまるものに2を入れてください。
同意します ・ 同意しません → 2へお進みください。
- 今後の甲状腺検査のお知らせが不要である方のみ2を入れてください。
甲状腺検査のお知らせは不要です



記入方法の詳細は、受診案内と一緒に
お送りするパンフレット(「甲状腺検査
受診の手引き」)をご参照ください。

Q 甲状腺検査は必ず受診しなければならないのでしょうか?

A 甲状腺検査は、東京電力福島第一原発事故の発生を受け、チェルノブイリ原発事故の際に放射線被ばくの影響として小児甲状腺がんが認められたことをふまえて始めました。福島県の場合、住民の被ばく線量は極めて低く、国際的な機関も、放射線の影響で甲状腺がんが発生するリスクは極めて低いとの見解を示しています。しかし一人ひとりの被ばく線量が十分に把握されたとは言えないので、長きにわたって甲状腺の状態を見守るため、希望される方に甲状腺検査を行っています。

一方、小さな甲状腺がんは、治療をしなくても多くは生命には影響しないと考えられています。そのため超音波で甲状腺を検査すると、症状がなく、かつ、将来にわたって体にダメージを与えないかもしれない甲状腺がんが多数発見される可能性が指摘されています。加えて、個別には、どれが進行する甲状腺がんかを十分に識別することは困難です。

こうした甲状腺がん超音波による甲状腺検査の特性をご理解いただいたうえで、受診を希望されるかどうかをご検討ください。

最近よくいただくご質問にお答えします

Q 震災時に5歳以下だった子どもからも甲状腺がんが見つかったと聞きました。原発事故で被ばくをした影響なのですか。

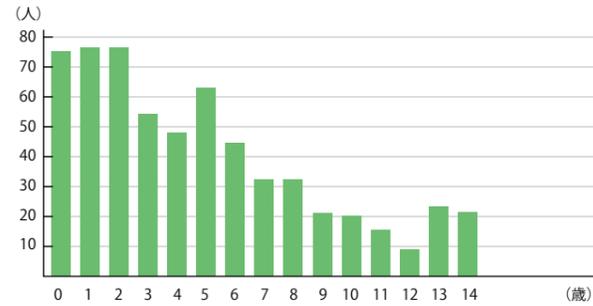
A 震災時年齢が低い方から悪性ないし悪性疑いが発見されておりますが、「放射線による被ばくの影響」とは判断することはできません。

右の二つのグラフをご覧ください。調査の期間や検査を実施した人数、対象の年齢などが異なるため、単純に比較はできませんが、チェルノブイリでは事故当時5歳以下だった方に、他の年齢よりも多く甲状腺がんが発症する傾向にありました。福島県の県民健康調査では、多くの場合、悪性ないし悪性疑いの方は、それよりも高い年齢層で見つかっています。

甲状腺がんは放射線のみが原因で発症するものではありません。また甲状腺がんは年齢が上昇すると、がんにかかる人が増えていきます。福島第一原発の事故から5年が経過し、検査の対象となる方々の年齢も上昇しています。震災時に乳幼児だった方々も、放射線と関係なく、その他の要因によって甲状腺がんが見つかったとしても不思議ではない年齢になっています。震災時年齢が低い方から悪性ないし悪性疑いが発見されても「放射線による被ばくの影響」とは判断することはできません。

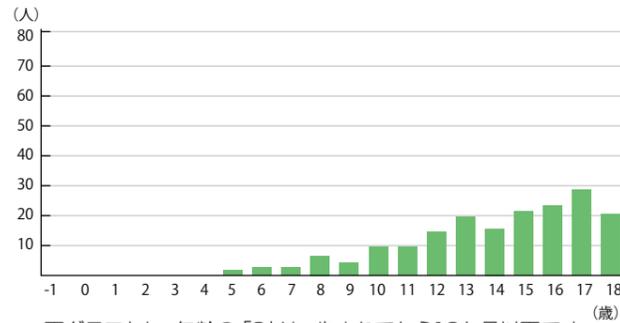
チェルノブイリ原発事故後のベラルーシにおける甲状腺がんの事故時年齢別発症数 (1987-1997)

※出典元:D. Williams, Oncogene (2009) 27, S9-S18; doi:10.1038/onc.2009.349



福島県県民健康調査「甲状腺検査」における震災時年齢別悪性・悪性疑い者数 (2011-2016)

※先行検査と本格検査1回目の合計人数です。



両グラフとも、年齢の「0」は、生まれてから12か月以下です。
-1は、平成23年4月1日から平成24年4月2日までに生まれた福島県民です。

ご住所等にお変わりはありますか

住所変更時には県民健康管理センターにもご連絡をお願いします。

甲状腺検査のご案内や、検査結果等の通知を正確にお届けできるよう、住所や氏名、電話番号に変更があった際は、新しい住所等を下記によりお知らせください。

《ホームページ上での変更》

URL <http://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/change-address/>

《お電話での変更》

コールセンター：024-549-5130 (土日・祝日を除く9:00~17:00) ※お掛け間違いのないようご注意ください。



甲状腺検査結果や医学的なお問い合わせ

平成28年4月以降から運用開始しています。



024-573-0205 (土日・祝日を除く 9:00~17:00)

※原則として、医師から折り返しお電話を差し上げます。折り返しのご連絡まで数日いただく場合がございますので、ご了承ください。

- ・本ダイヤルは甲状腺検査対象者および、ご家族の皆さまからの質問専用ダイヤルとなりますので、あらかじめご了承ください。
- ・一般的なご質問（検査会場や検査日程の変更、住所変更等）は **[024-549-5130]** までご連絡をお願いします。

超音波の検査機器をご紹介します

●超音波とは

ヒトの話し声や楽器のメロディと同じ、音(おと)の一種ですが、ヒトの耳には聞こえないもっと高い音のことをいいます。ヒトの話し声は、1秒間に100回から500回ぐらい、空気を揺らします。これに対して超音波は、1秒間に2万回以上も空気を揺らします。空気を揺らす回数が多いと、音は高くなります。超音波とは、ヒトの耳には聞こえない高い振動数をもつ音波です。

イルカやコウモリ、ハムスターなどは高い音を聞き取れる動物です。特にイルカは超音波を使って、遠くにいる仲間やエサの場所を探したりします。

●超音波の仕組み

超音波を画像にする仕組みは、山に向かって叫んだ声のはね返ってくる「やまびこ」と同じです。超音波の検査では、そのはね返りをプローブ(のどにあてる器具)でキャッチし、モニターに画像として映し出しています。

●超音波を使った他の機器など

超音波は、その高い音波の性質を利用して、母親のおなかにいる赤ちゃんをみるときに使われるなど医療現場の画像診断で使われます。ほかにも、魚群探知機、超音波洗浄機(メガネなど)、超音波歯ブラシなどで超音波を利用しています。医療用の超音波機器は、1秒間に空気を数十万回から数百万回揺らすものが多いです。



×線のような放射線ではないので、超音波の検査で被ばくをする心配はありません



検査会場などでお目にかかります。よろしくお願いします

平成28年度の甲状腺検査部門の責任者は次のとおりです。

甲状腺検査部門長	大津留 晶
甲状腺検査推進室長	鈴木 悟、緑川 早苗
甲状腺検査推進室副室長	志村 浩己、松塚 崇、後藤 紗織

新たな責任者(副室長)を紹介します。

①出身地 ②趣味 ③好きな言葉 ④福島県内でおすすめの場所

まつか たかし
松塚 崇



主に二次検査を担当しています。子供たちの父親の立場で検査を行わせていただきます。

耳鼻咽喉科学講座准教授
放射線医学県民健康管理センター
甲状腺検査推進室副室長

- ①郡山市 ②機械いじり
- ③急がば回れ ④裏磐梯

ごとう さおり
後藤 紗織



臨床心理士です。ご心配なこと、気になることなどありましたら、遠慮なくお声掛けください。

放射線医学県民健康管理センター
特命准教授
こころの健康度・生活習慣支援室
甲状腺検査推進室副室長

- ①東京都 ②舞台鑑賞 ③塞翁が馬
- ④特定の場所はないのですが、福島の空がきれいなので気に入っています。